

【レポート】

2023年の吉賀町職における自治研活動の経過および今後の課題をまとめています。

吉賀町職員労働組合における自治研活動

島根県本部／吉賀町職員労働組合・自治研部長 中山 武

1. 吉賀町について

吉賀町は2005年に柿木村と六日市町が合併して誕生した島根県南西部に位置する人口5,600人程の自然豊かな農山村地域です。町を南北に清流日本一で知られる高津川が貫流しており、6月から10月にかけては鮎を求めて多くの人を訪れます。吉賀町では有機農業の取り組みが行われており、水稻やキャベツ、ミニトマト、わさびなどが有機栽培されています。また、工場や医療現場や農業等の分野で中国・ベトナム等からの外国人労働者が多く活躍されています。真田地域に整備した人工芝グラウンドよしかみらいが町内外のサッカー団体に活用されるほか、毎年4月頃に開催される夢花マラソンなどスポーツによる交流も行われています。

2. 地域の課題について

人口減少や高齢化が進み、空き家、耕作放棄地、農業をはじめとする事業や地域活動（祭り、清掃等）の維持・継承などが長期的な課題となっています。加えて近年では増加している外国人住民と地域の相互理解に向けた取り組みなどが求められています。また、地域の医療拠点でもあった病院が経営危機となり、公設民営化してよしか病院として2024年3月より運営されるなど、大きな変化を迎えています。

3. 2023年の自治研活動について

2023年は部会3回と活動を2回実施しました。

(1) 第1回自治研部会（1月30日開催）

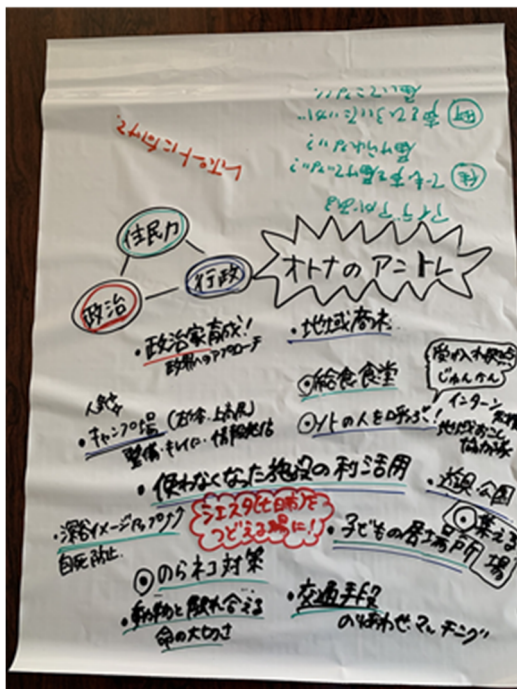
2023年の活動について話し合い、自由に意見を出し合いました。

- ・そもそも自治研部の目的は、地方自治の研究や地域課題を解決するために活動すること。
- ・自治の力（自分たちで思ったことをできる力）が昔に比べ弱まっている。それが町民の方からのクレームにもつながっていると思う。（例：除雪、避難所 など）
- ・他の部署のこと（クレーム）が分からない。一人で抱えてしまうことにもなる。
- ・クレームの内容を研究し、組合内で発表（共有）できると、クレームを抱え込まず、プラスに考えられるようになるかもしれない。
- ・深谷大橋からの自死が課題となっている。季節ごとでもいいので見回り活動ができると、偶然でも自死を考えている人に会えると、思いとどまってもらえるかもしれない。
- ・深谷大橋の柵をイルミネーションで飾ると、明るくなるし、思いとどまってもらえるかもしれない。
- ・町内にドッグランがない。動物との触れ合いや、餌やり体験が出来る場があるとその場が保護動物を知ってもらえる場になるかもしれない。

- ・継続して活動が続くためには、NPOなどがあるといい。NPOの立ち上げを考えた人がいたが、立ち上げまでに至らなかった。立ち上げについて勉強するのもいい。
- ・コロナ禍になり、キャンプの人气が上がったが、右ヶ谷キャンプ場などが草だらけになっている。グランピングも人気があるので、環境や施設整備ができると、集客にもつながる。
- ・提案の時は予算も含め提案をしていく方がいい。
- ・自分たちも、一住民なので街をよくするためにできることを考えたい。

(2) 第2回自治研部会(2月13日開催)

前回の部会の意見をふまえて、大判紙に意見を整理して、共通のキーワードを探した結果、「集える場」が共通のキーワードとなりました。キーワードに沿う活動として、町内にあるシエスタという施設を集える場として活用する方法を考え、同時に、施設でやってみたい活動の予算やスケジュールを各自考えてみるようになりました。



【やってみたいことの提案】

『集える場』になるには何が足りてないのかな…(？)

現状:

いいなという案になるためにやってみたいこと:
(できるだけかは関係なく、書いてみよう。)

こうなるといいな(こうなったらいいな)という案:

やってみるために必要なことは(予算、物、など):

スケジュール:

(3) 第3回自治研部会(5月15日開催)

シエスタを活用するために施設の現状や課題、課題の解決法、手順などを具体的に検討したところ、行政の複数の課の協力が不可欠で、必要な予算や手順、スケジュールを現時点では明確に示すことができませんでした。そこで、施設の活用について検討していくことは継続検討事項とし、「やってみたいことの提案」の中で、現時点でできることを行う事としました。新たな活動を検討した結果、近年ごみの投棄が増えている、草の成長が早く草刈りが追いついていないという地域課題があることから、庁舎の周りの清掃活動を行うことにしました。

(4) 清掃活動の実施(6月27日、9月27日開催)

吉賀町は庁舎が2つあり、6月27日には六日市庁舎34人、柿木庁舎で14人の組合員が参加しました。庁舎周辺にはビンや缶、たばこの吸い殻、発泡スチロールなど多くのごみがあり、参加者は熱心にごみ拾いを行いました。また、雑草が目立つ場所があったため、草刈りも行い綺麗にしました。ごみを拾い雑草を抜き取るなどの作業を談笑しながら行うなど、普段の業務とは違うコミュニケーションにより、組合員同士の連帯にも結び付くなどの効果がありました。

さらに、9月27日にも同じく六日市庁舎、柿木庁舎での清掃活動を実施しました。特に六日市庁舎で

は53人もの組合員が参加し、柿木庁舎の13人も含めれば66人と、約80人の全組合員のうちおよそ8割もの参加がありました。

2回目においても全庁舎周辺のごみとしてはたばこの吸い殻や空き缶といったものや、発泡スチロールや包装ビニール片などが見受けられました。両庁舎がともに川の近くにあることから、流れてきたものや風で飛んできたものなど多いかと思われませんが、継続的な取り組みの結果、集まるごみの量も徐々に減少してきているように思われました。

4. 2023年の総括、今後の課題について

2023年の活動については、当初アンケートの実施、町内の未活用施設の活用などの検討を経て、最終的には2度の庁舎清掃活動といった結果となりました。

未活用施設の利用について、議論の結果組合のみでの働きかけは難しいといった結論となりましたが、その後、町内のいくつかの団体から相談があり、主管課で業務として取り組む運びとなりました。

清掃活動については、2022年度以前にもたびたび実施しておりますが、清掃活動が本来の自治研活動の趣旨である「公共サービス課題の発見・改良」という点についてどう結びついているか、またどう発展させていくかなど、ここ数年なかなか深める機会がありませんでした。

今後の取り組みについて、2024年度部会において意見を求めたところ、庁舎周辺だけでなく町の文化財や公園周辺といった手入れの行き届いていない施設の清掃活動など、より地域に貢献できる取り組みをめざしていきたいとの意見がありました。

また、大きな活動ができていない地域他単組との連携なども検討してはどうかなど、より積極的な活動を行うことで地域の労働組合活動全体の活性化を図る意見も出ていました。出された意見を総合すると、地域への積極的な貢献と、組合活動のアピールと活性化を両立させる取り組みが必要とされていると感じました。

7月には浜田・益田・鹿足ブロックの自治研活動学習会が開催され、自治研活動の歴史や島根県内の取り組み事例を学ぶことができました。続く10月のしまね自治研で発表される各団体の取り組みや分散会等の意見を参考に、吉賀町職員労働組合として地域の理解を得て、地域の発展に寄与する自治研活動をしていきたいと考えています。